カンボジアに行って良かった

諏訪　祐紀子

私は東南アジアにすら行った事ありませんでした。初めて出逢う物事に衝撃をうけるばかりの日々でした。そして当たり前のことを当たり前に出来る有り難みを感じました。自給自足で生活している人々、それでも生きていくお金がなくて物乞いする親子と同じ空間に居ると、私達がどれだけ恵まれているか贅沢者なのかを思い知ることができました。しかし驚いたのはカンボジアの子供たちがとても元気で笑顔であることでした。そんな子供たちのキラキラしたものを、生きる為には犠牲にするしかないのが現状だというのは、とてもやりきれない気持ちです。しかし、どんどん便利な世の中を追い求めて贅沢に埋もれていく日本と、最小限の生活しか出来なくても生きる喜びを味わうことの出来るカンボジアとでは、どちらが幸せだとは言い切れないと感じました。私はカンボジアの恐ろしい過去の現実を知り、平和ボケから目を覚まされた気持ちです。日本に帰ってからでさえ、ふとそのことを思い出してしまっては恐怖を覚えます。しかし当たり前に明日を向かえることができるのは本当に素晴らしいことだと思いました。私が日本に帰って来たとき、私は死の恐怖なんて感じたことのないとても平和な中で生活してきたのだと、本当にそう思いました。カンボジアの人々の心の中からはやはり戦争や内戦の恐怖が消えない様で、まだ平和だとは言えないと思いました。しかし、そのことを知る機会がないことがとても残念です。私達が見てきたカンボジアの現状、一緒に遊んだ子供たちというのはほんの一部にしかすぎないかもしれないですが、ほんの少しでも役に立てたということを嬉しく思います。今回行ったカンボジアの首都プノンペンや観光地となっているシェムリアップでは、多くの支援によって復興しかけているかのように見えますが、それ以外の地域では支援がまだ行き届いておらず、更に不衛生で酷い状況の中で生活している人がいっぱいいるみたいです。そこでこれからはもっと焦点を広げて行きたいなと思いました。

私が P.C.C に入ったのは、２回生の夏でした。絵本が好きだったのと、カンボジアに前々から興味を持っていたことから、出遅れながらもこの活動に参加したいと思いました。みんなと比べてついていけていない部分や足手まといになっていた部分もあったかもしれません。それでもみんな一緒に絵本を作り、届けることが出来て本当に良かったです。絵本を作るにあたって、みんなでよりカンボジアの子供たちに興味を持ってもらえる様に心がけました。苦労して仕上げた絵本だからこそ、気持ちを込めて渡すことが出来るのだと思います。そしてだからこそ、子供の喜んだ顔を見ると、こっちまで嬉しくなってしまうのだと思いました。これは買ったものを渡すだけであったら、出来ないことだと思いました。しかし訳が間違っていたために修正作業を現地でしなければならなりませんでした。今回の STUDY TOUR では多くの反省点が見つかったので、次からは同じ失敗をしない様にしていきたいです。これからももっと多くの子供たちと触れ合い、絵本を届け、勉強する機会を与えることが出来たら良いと思います。